
老賢人の話

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

老賢人の話

【Nコード】

N5469A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

理由も分からずに戦争をする二つの国の長とその理由を知る老賢人の話。

始めに戦争があった。

いつ始まったのか

なぜ始まったのか

誰も知らない。

ただ、人々は憎み合った。

父を殺し、母を殺した敵が憎い。

妹を殺し、兄を殺した敵が憎い。

二つの国は同じように敵を憎くんだ。

二つの国の真ん中に老賢人が住んでいた。

老賢人は戦争がなぜ起こったのかを唯一知っている人間だった。

二つの国の長は、老賢人に話を聴きに行きどちらの国が悪いのか判断を仰ぎに行くことにした。

老賢人はこう言った。

「戦争がなぜ始まったか教えよう」

二人の長は頭を垂れた。

「戦争がなぜ始まったか教えてください」

それぞれの長が言った。

ある年の暮れに、二つの国の長が話し合った。

今、老賢人が住んでいる土地がいつたいどちらの国の土地なのか。

一人の長は、

私達の国の主な川が流れている老賢人の土地は私達の国のものと主張した。

もう一人の長は

私達の国の誇りである山脈がある老賢人の土地は私達のものだ

と主張した。

その結果、二つの国は老賢人の持つ土地を巡って戦争になったのだ。

老賢人の話を聴いて、一人の長がいった。

私達の国の川はもう200年も前に枯れてしまった。

老賢人の土地はもう、私達の国のものではない。

それを聞いたもう一人の長も言った。

私達の国の誇りだった山は無惨にも200年前に破壊されてしまった。

老賢人の持つ土地は私達のものではない。

二人の長はもう戦争をする理由はないと判断した。

そしてそれを、二つの国で同時に発表することにした。

二つの国の長は

もう戦争をする理由がないこと

老賢人の土地を自分達は放棄すること

を発表した。

それからすぐに

二つの国の長がそれぞれ変わった。

誰が私達の川を枯らしたのか

誰が私達の山を破壊したのか

戦争をするためだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5469a/>

老賢人の話

2011年1月16日07時42分発行